

第四回委員会後の主な状況と事務局評価について

作成：委員会事務局（核物質防護モニタリング室）

重点確認事項	第四回委員会後の主な状況と事務局評価
<p>視点① 発電所で働く人・組織の連携</p>	<p><b>1. 発電所の主な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発電所で働く意義・目的の理解・醸成（一体感醸成への取り組み）</li> <li>・発電所で働く意義・責任について、ワンボイス活動の中で、各管理職から発電所員及び協力企業に継続して発信。一次請け・二次請けの方々なども参加する元請協力企業の朝礼参加（月次）や現場での直接対話を通じて、セキュリティに関するルールや発電所を取り巻く状況などを発信中。</li> <li>・このようなルールなどについて、協力企業と当社社員の転入者教育に相違があることから、より充実している協力企業に合わせた見直しを検討しているところ。</li> <li>・正門・手荷物検査場での渋滞緩和に向け、発電所全体で対策（時間帯・車種の規制、社員のタクシー乗入れ制限、業務車の相乗り、積載物の最小限化・整理整頓など）に取り組んだ。渋滞対策の効果は出始めており、4月の敷地外の渋滞はゼロ。また、渋滞の原因となる他の課題（積載物の多い車両の点検時間削減）に対して、一つひとつ解決するための活動を継続中。</li> </ul> <p><b>2. 核物質防護モニタリング室の主な観察結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正門では、入構証の顔の横への提示、窓開け、可能な範囲でのドア開け、見張人への挨拶・声掛けが行われている。イヤホン装着のまま点検を受ける社員は観察されていない。</li> <li>・防護本部・副防護本部のAゲートでは、IDカード・申請書類の掲示、カゴやトレイへの金属物の事前仕分けと手荷物の開披など、点検への協力姿勢は良好。特に4Qでは、未許可スマホ持込阻止を受けた対策として、相互のポケットを確認しあう作業員の行動も観察されている。</li> <li>・発電所への転入者教育では、社員と協力企業で核セキュリティに関する教育内容と方法に差があり、核セキュリティに関して自律的な行動を促進・維持するよう指摘済み。</li> <li>・これまでの取り組みにより、不要警報は大幅に削減され、今期の荒天時においても確実な警報評価が行われている。一方で、「内部脅威者」を想定した警報評価の在り方に課題あり。内部脅威への更なる備えとして、不審を見逃さない責任としての“相互の声掛け”はどうあるべきか考え、発電所全体で実践に繋げる必要がある。</li> </ul> <p><b>3. 委員会の主な観察結果（分科会などでの観察結果とご意見）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・副防護本部Aゲート前で未許可スマホなど持込規制品の持込がないか相互に確認しあう作業員の状況や、防護本部では不要警報が減少し、落ち着いて監視が行われている状況などを観察した。これらは、発電所での改善活動が一過性にならず進みつつあることを確認した。</li> <li>・外部から脅威が入ってくることに対応しているが、内部でも「もしかしたら」という意識も必要。信頼して一緒に働いている人に対してそう思うのは難しいが、意識していかないといけない。</li> </ul> <p>➤ <b>【事務局評価】発電所で働く一人ひとりのふるまいは定着してきている。一方、一部意義・目的の理解が不足している事例もあり、継続確認</b></p>
<p>視点② セキュリティとセーフティの調和（共存）</p>	<p><b>1. 発電所の主な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺防護区域へ入域する車両の点検において、長距離輸送に備えた嚴重な梱包がなされていたため、通常よりも多くの時間を要したトラックがあったが、所内ワイガヤレビューを行い、事象の共有と対策を立案、協力企業の意見も聞いて、セーフティとセキュリティの協力体制による車両点検時間短縮（点検待ち時間短縮）に向けた対策を展開。</li> <li>・周辺防護区域へ入域する車両点検において、3月に車内点検に時間を要する生コン車が確認された。同じ生コン車は4月の入域時も点検に時間を要する状況であった。コンクリートの品質維持に影響を及ぼす懸念から作業が中断となったが、速やかに主管Gが協力企業と対話し、コンクリートの品質維持と確実な点検を実現する方策を展開。</li> </ul> <p><b>2. 核物質防護モニタリング室の主な観察結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持込品の最小化や金属探知機の追加などにより、A/Bゲートの点検待ち渋滞は大きく改善され、朝・昼の繁忙時間帯でも恒常的な点検待ち渋滞は発生していない。</li> <li>・副防護本部車両ゲートでは、積載物の多い車両の点検に40分を要した（通常では10分程度）。また、入域のために並んでいた次の大型車両が、竜巻対策による入域制限も相まって、並んでから入域までに2時間を要した。</li> <li>・副防護本部車両ゲートで、1台の点検に20分超を要した生コン車が2台連続した。車内には棚や小物、書類など多数物品があった。車両ゲート前の点検待ちレーンには生コン車9台が点検を待っていた。一部のコンクリート打設工事は中止を余儀なくされた。</li> <li>・発電所幹部は、車両ゲートの渋滞等の課題に対する現地現物での事実把握と自主的改善に能動的に関与し、セーフティとセキュリティ両方を知る要員育成（人事ローテーション）などの実現を通じて、セキュリティを特別視しない、“セーフティとセキュリティの調和（共存）”がとれた発電所の実現にこれまで以上にリーダーシップを発揮する必要がある。</li> </ul>

	<p><b>3. 委員会の主な観察結果（分科会などでの観察結果とご意見）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セーフティとセキュリティについて、車両ゲートの点検に、あらゆる現象も含めてすぐ時間がかかり、不満が高まってしまふ。そういうストレスが現場で蓄積していると思う。セーフティとセキュリティの調和については、発電所で働くということの意味を大切に伝えていくことが重要。</li> </ul> <p>➤ <b>【事務局評価】セーフティとセキュリティを同時に高めていくような連携が重要で、その状況を継続確認</b></p>
<p style="text-align: center;"><b>視点③ 地域内外との コミュニケーション</b></p>	<p><b>0. 第四回改善措評価委員会（12月6日開催）での提言</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立地地域とそれ以外の地域、物理的な距離感などで、関心の度合いが違うと思うが、その違いを理解して、地域ごとに必要な取り組みを行う必要がある。信頼の回復のためにどうしたらいいか、新たなコミュニケーションの工夫をしていくことが必要。何のためにコミュニケーションを継続していくのかを考え、効果的なコミュニケーション方法を工夫していただきたい。</li> <li>・地域内外とのコミュニケーションについて、一步踏み出そうとしており、良い動きが出てきている。前例踏襲になりがちなところを変えていかないといけない。</li> </ul> <p><b>1. 発電所（&amp;新潟本部）の主な取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>発電所で働く企業の皆さまとのコミュニケーション</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最も身近な地域の方々として、発電所で働く企業の皆さまに、各企業の朝礼や発電所長ブログ、電子掲示板での動画放映などで、地域の関心事を踏まえた広報活動の内容を発信。発電所で働く一人ひとりが、新潟県内の方々に発電所の取り組みを説明できるよう、引き続きコミュニケーションを強化していく。</li> </ul> </li> <li>○ <b>コミュニケーションの工夫</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションブースでは、お一人おひとりのご意見や疑問を個別で伺っている。</li> <li>・初めて開催した東京電力フォーラムでは、エネルギーや放射線の専門家によるトークセッションやサイエンスショーなど参加型の企画を実施することで、幅広い層の方に来場いただき、ご意見をいただいた。</li> </ul> </li> <li>○ <b>伝わるためのコミュニケーション</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記広聴活動で確認したご意見や疑問を踏まえ、広報活動を展開。広報誌や新聞広告といった情報発信に加え、SNS では「発電所で働く人を知りたい」といった声を踏まえて、ショート動画（1分以内）で「発電所の日常」や「社員の素の姿」を伝える動画を配信。発電所情報に触れる機会の少ない方にも届くよう、投稿回数を増やすとともに Web 広告を実施。</li> <li>・地域の皆さまへの説明にあたっては、限られた時間の中で効果的に伝わることを意識し、「対応者の説明内容を揃える（ワンボイス）」「知りたいことを端的に伝える（ワンフレーズ）」に注力。地域の皆さまから良くいただくご質問に端的に回答する Q &amp; A 形式の資料が好評のため、広報誌などにも展開。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>2. 委員会の主な観察結果（分科会などでの観察結果とご意見）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの情報提供のあり方からは、立地地域とそれ以外の地域とでは、情報量がかなり違う。そのことを社内で認識し、事業をしながら新たな対応へと繋げていかねばもったいない。どんな人がどんなことを考えて、何を知りたいと思っているのか、どういう場所に行って広報するのかなど、相手の立場を理解した上で活動することが必要。</li> <li>・「ワンボイス」について、説明を統一するというのは重要なことだが、「伝えたいことは何か」ということを、一言で伝えることが重要。「ワンボイス」の設定が合っているのか、本当にそれでいいのか、考えないといけないレベルなのかもしれない。</li> <li>・東電フォーラムについて、新しく方向性を変えたり、要望に応えたりして第一歩を踏み出したことが非常に重要、見守りたい。</li> </ul> <p>➤ <b>【事務局評価】 取り組みを踏まえ、継続確認</b></p>